



将来の財政見通しは

高松 幸雄 議員

健全な財政運営をしていく

市長

財源対策をどのように考えているか。

市長 公共施設の老朽化対策、更新費用の増加が見込まれるが、持続可能な行政運営をしていくために基金を適切に活用していきたい。将来を見通した事務事業の検証・精査を繰り返し、効率的な事業判断をしながら健全な財政運営をしていきたい。

育委員会は立田・八開地区の全てを統合することで適正規模の学校とする方針を決めた。愛西市の教育は小中一貫校にしていくことが望ましいと判断した。

今後、小中学校規模等の適正化を円滑に進めるために考えている取り組みは。

延べ床面積で一番多く

占めている公共施設は学校である。学校については小中学校規模等適正化において、立田・八開地区の学校全てを統合、小中一貫校にし、立田中学校の既存校舎を活用することが決まったが、その理由は。

教育部長 少子化が著しい立田・八開地区で教育環境を整えていくことを優先することが、愛西市立小中学校適正規模等検討協議会で決まり、三つの統合案を示したが、教

育委員会は立田・八開地区の小中学校を一校にして小中一貫校を立田中学校の跡地につくる案について、2回目の保護者説明会を開催した。特に2回目は小学校の児童、未就学の子どもがいる保護者限定の説明会を開催し、数多くの意見をもらうことができた。今後においても、これから学校に通うことになる子どもがいる保護者を中心に、地域住民からできる限り多くの理解が得られるよう地域説明会を開催し、小中学校の規模適正化を進めていきたい。



▲総合計画高校生ワークショップ

平成20年から今年度までの計画であった第1次愛西市総合計画に続くものとして、第2次愛西市総合計画が今議会において議案として提出された。この総合計画では将来都市像として「ひと・自然・愛があふれるまち」とあるが、この新たな将来像を決めた方法と言葉に込められた意味は。

企画政策部長 本計画では、市民の意見を広く反映させるための市民ワー

クシヨップや、若い世代の意見を聴取するための高校生ワークショップから浮かび上がった本市の魅力をもとに、多くの人に愛される愛西市となっていくようお願いを込めて決めた。

本計画には、将来の財政見通しが記載されている。この財政計画通りになると、平成38年度以降の近い将来、基金が枯渇して赤字運営になる。市長は今後の財政見通し・